

I I R S (総合画像研究支援)セミナーの感想

千葉大学真菌医学研究センター 山口正視

今回のセミナーは、多くの学会や講演会での話とは、一味違ったものだった。「ブラディオンプロジェクト」と名づけられた田中先生の研究は、遺伝子発見に始まり、最終的には、製品を販売して臨床現場における診断と治療に実際に応用することを目指している。私を含めた大多数の研究者は、研究費を申請するときに、自分の行っている研究が「病気の診断と治療に役立つ」と書くが、これが本当に臨床現場で役立つようになることは極めてまれで、自分の代でそれが実現するとは思っていない。田中先生は、ご自身で短期間に、これをやっ
てのけようとしている。これは大変なことだ。ブラディオン（酵素の一つ）の分子構造を決めるだけでも大変な仕事だが、これを数年でやってしまった。このような基礎研究から、工場で製品を作ることまでを実行するには、多くの人々の協力が不可欠で、田中先生は、世界中をみわたして、最適な研究グループと手を組み、また事業化に必要な交渉をも行っている。我々凡人研究者は、狭い範囲の研究から抜け出すことができず、せいぜい、いい雑誌に論文を発表することに汲々としているが、田中先生のプロジェクトは研究者の殻を破ったスケールの大きい試みであり、このセミナーは、ある意味で正に「驚き」であった。最後に、このようなすばらしい話を聞く機会を提供してくれた「NPO総合画像研究支援」に感謝する。